



写真 醍醐寺金堂（国宝）

四季折々の風景を見せてくれる醍醐寺は、平成6年『世界文化遺産』に登録されました。五重塔・金堂・薬師堂など6つの国宝建築物があり、この数も京都で最も多いようです。秋には、紅葉に包まれた多くの国宝建築物を見ることができます。春には、桜が満開に咲き、見るものを感動させてくれます。2月23日の五大力さん、4月第2日曜日の豊太閤花見行列は有名です。

施設運営理念

1. 老人の人権を尊重し、生活の質の向上に努める。
2. 老人の自立を支援し、家庭復帰を目指す。
3. 老人とその家族が安心して暮らせるまちづくりに貢献する。

我が国の老人の家族と同居率は、先進国の中ではかなり高いといわれていますが、家庭での老人の地位は確実に低下してきています。家庭や地域社会の変化は老人の孤独感を強め、心身の衰えや病苦・生活の困難などがそれに拍車をかけています。

老人は退職や、友人・知人の死亡、子供の独立、配偶者との死別などによって、人間関係が稀薄になりやすく、その上、高齢者になるにつれて適応力や柔軟性が弱まり、他者との人間関係を新たに築きあげることが、なかなか難しく孤立しやすい傾向にあります。とくに配偶者との死別は、生きる支えを失うことにつながる場合もあります。かつて、子供や孫に囲まれ、敬愛されて、安楽な生活を送ることが老人の理想像でありました。

老後の生活時間を活用するなんらかの目的や、趣味・娯楽をもち、それが生きがいになる場合もありますが、戦中戦後の激動期にひたすら働きつづけ、老後生活に趣味や娯楽などをいかす術や、ゆとりをもてずにきた人々も多い。また生きる上での人間関係は大きな支えとなるが、その意味で老人の生きがいにとって、恋愛や結婚の重要性も認識されている。しかし高齢者の恋愛や結婚に対する社会・家族の偏見や抵抗は大きい。平均寿命の延長によって長くなった老後をいかに生きるかは、個人にとっても社会にとっても大きな問題であります。

当施設では、こうした高齢者のかかえる問題を職員が共通認識し、施設内でのケアは勿論のこと、機会をみつけて地域社会との結びつきを強め、買物レクリエーション等の事業を通じ利用者、家族と共に老後の生きがいについて語り合い、つねに新しい自分を発見しつつ、生きる喜びを共有することが施設の役割でもあり、この理念に沿って着実な歩みを続けたいと存じます。



第一回 醍醐 歴史探訪

醍醐の地には、古代から現代へと続く歴史があります。第一回では、醍醐寺を紹介します。

社会福祉法人 伏見福祉会 広報誌

きこうと
醍醐の里



題字・発行人
理事長 高松俊英

介護老人保健施設 醍醐の里
京都市伏見区醍醐内ヶ井戸19-1
TEL(075)571-5222
FAX(075)573-7666



高齢者の生きがいについて
社会福祉法人 伏見福祉会
理事長
高松 俊英

事務部長

中西 雅彦



介護老人保健施設醍醐の里は、平成十三年三月に地域の皆様とともに開所し三年半が経ちました。この間多くの皆様にご協力を賜りましたことに心より感謝しております。

当施設は、「介護の質の向上」を常に心掛け運営してまいりました。今、「流れ作業的なケア」から、「生活をともにするケア」に重きを

おき、既存のリハビリを基本に、楽しく出来る音楽・園芸・手芸等多くの手法を取り入れ、様々なご利用者に生きがいを感じて頂けるように努めております。

また当施設にご入所されて、その後どうされるのか？困ったから入所という事だけでなく、ご本人がこれからどう生活していかれるのが一番良いのか？当施設だけでは出来ない事は、地域の他機関にもご協力をいただきながら、ご利用者や家族の方とともに考えられる施設になりたいと念じております。

老健施設が「家庭復帰施設」であることを意識し、地域のニーズに応えられる施設にこれからも成長してまいります。

看護部長

松本 よしえ



当施設も開所四年目を迎えて、日々サービス向上に向けて全職員が精進している所です。

高齢者が住み慣れた家や地域から病院や施設へ入られると、環境に適應する事に多大な努力や我慢を強いられる事になります。

その中でわずかな時間をさいてご家族が会いに来て下さるその事がご利用者様

を和ませ・安心させてくれます。職員の100の言葉よりご家族様の笑顔が一番のようです。

私達は家や地域で生活していた時のように日常会話や生活リハビリを通してご利用者様の残された機能を最大限に引き出す事が出来る様支援していきます。

施設長・ケアマネージャー・リハビリ職員・看護師・介護、他関係職員がご家族様と共にご利用者様を支え、職員がご家族様の精神的支えになれるよう信頼関係の構築に努力致します。

私達職員は、ご利用者様やご家族様に励まされ教えられ、叱咤激励されながらこれからも手を携えて行きたいと心から願っています。



介護支援専門員

八田 真弓
佐竹 美保子



当所では専任のケアマネージャー2名で利用者様・家族様の相談援助業務に従事しています。入所以後、各専門職と連携を図り、個々人の状況や状態に合わせてケアプランの作成、サービスの調整をするのがケアマネージャーの仕事です。

ケアプラン作成にあたり、一番最初にご本人とご家族様の意向を聞き、ご利用者様の健康状態、ご家族様の状況を把握した上で、少しでもご本人様とご家族様の希望に添ったケアプランを作成し、ADL・QOLの向上を図り、在宅復帰の実現を目指しています。

また施設での生活も、生活リハビリ（洗濯）・個別リハビリ・郊外レクリエーション・個別レクリエーションの提供など、個別のサービスの提供に努めています。

その他、ご本人様の生活援助と共にご家族様の支援も重要な仕事であると考えています。ご家族様の抱えている苦悩や問題を傾聴し、ご家族様の気持ちに寄り添いつつ、ご利用者様本人のより良いサービスに繋がっていくことを念頭にこれからも活動を続けていくつもりです。

支援相談員

宮本 たづる
松本 宗久



当施設の支援相談員は2名、短期入所を含む申し込み受付と入所前相談を担当しております。

申し込みに来られる方の実情をみますと殆どが核家族であり、高齢者の妻や就労するお嫁さんや、娘さんに委ねられている状況です。

在宅復帰は、家庭背景や社会的にも極めて難しく、老人保健施設を始めとする施設を場当りの移動されている方々が多いと言えます。

支援相談員は本来、知識・技術を身に付け感情に流されず対応に当たることが必要ですが、私達は先ず親を持つ子としての視点に立ち、ご本人様の意向・ご家族様の思いを尊重し、あらゆる側面から熟慮し、個々に相応しい社会資源の活用が出来る様、詳細な説明と同意を得て、ご本人様だけでなく介護者の生活も支えて行ける様にと、常に心掛けております。

今後も更に地域や施設情報を積極的に収集し、より多くの必要な情報を皆様に提供できる様努力してまいります。



通所リハビリテーション

デイケアでは、生活リハビリとして毎月第四週の三日間に季節に合った料理やおやつ作りを実施しています。

今年は、お好み焼き・たこ焼き・かき氷・わらび餅・月見団子・スイートポテト等を実施しました。野菜の皮むきや、みじん切り、粉を混ぜたりこねたり、材料を小皿に人数分に分けたりと、自宅ではあまり料理されない男性の方々も話をされながら楽しまれています。女性の方々は経験者がほとんどなので、手際がとても良く、又、スタッフにご指導頂いたり、ご利用者の皆様の経験談を聞きながら、材料を切ったり、



おやつクッキングには、男性利用者の方も楽しんで参加されています。



今年、利用者の皆様が作成された『希望の木』です。これからはフロアに彩りをそえてくれると思います。

形作ったりと何でもワイワイと話せるアットホームな雰囲気です。時々、材料のま味見されたり、お団子の餡子を「おいしそう!」と先に食べられたり、アクシデンもたまにあります。

来年の生活リハビリの目玉クッキングは、今年作った味噌でちゃんこ鍋を予定しています。一年寝かした味噌で作る鍋は最高の味を楽しめる事と思います。

今後は、お一人暮らしのご利用者様も多いので、健康維持の為に栄養の勉強等も加えながら、色々な料理やおやつに挑戦していきたいと思っております。何か良いアイデアがあれば、アドバイスを宜しくお願い致します。

2階 療養棟

2階療養棟において、今回は生活リハビリテーションの種類を紹介させて頂きます。

月一回の買い物その他、郊外散策・料理・おやつクッキング等のレクリエーションを実施、そして掃除・洗濯リハビリなどご利用者様のリハビリレベルに合わせて行っています。

更に、本年度の企画としては、ホテルランチ・バーベキュー・かき氷作り・わらびもち作り・たこ焼き作り・秋の公園遠足など主として「食」をテーマにした企画を実施してきました。



『愛と死をみつめて』を上映し、感動され、涙したご利用者様がおられました。



生活リハビリ 料理レクリエーションで、たこ焼き作りをして大好評でした。

特に、たこ焼き作りでは、食の細いご利用者様が食欲十分に食されたり、生き生きとした笑顔などご利用者様の反響が良く、次回へ企画作成の意欲がわきました。

一方、生活リハビリの他に普段のレクリエーションでは、8月より月一回程度の間隔で映画(ビデオ)鑑賞会を行っています。スクリーンとプロジェクターを使用し、昭和の名画を上映し、大変喜んで頂いています。今後は季節にに応じて外出をする生活リハビリを企画していきます。



3階 療養棟

三階療養棟では、ご利用者様それぞれの日常生活に着目し、個々の生活に留意した諸活動を意図的・意識的に施設援助活動・リハビリテーションの場に汲み上げ、取り入れる事で、よりご利用者様の生活に密接に関われるケアを目標に取り組み進めています。

ご利用者様自身による調理を主題とした、『おやつクッキング』では季節の食材を用い、白玉団子・わらび餅作りに挑戦。食材の準備段階から実際の調理、喫食までをスタッフ・ご利用者様共々で行いました。



平成16年9月22日ご利用者様・スタッフ共同で『わらび餅』作りに挑戦しました。



平成16年10月22日施設内菜園で植え付けを行った、『さつまいも』の収穫を迎えました。

三階中庭を利用した施設内菜園では、果菜・根菜類を中心に苗の植え付けから、収穫までをご利用者様のご協力のもと行い、十月にはさつま芋の収穫を迎えました。いずれの活動も、施設生活におけるご利用者様相互の交流・共同活動を通して、日々の生活に“喜び”“楽しみ”を添え、活力ある生活の実現、より良い・より豊かな生活の実現を目標に諸活動に取り組んでいます。



4階 療養棟

今年度より、毎月テーマを決め生活リハビリテーションを実施しています。昨年末には、施設内での単調な生活におちいらぬと社会性を維持する為に、外出し買い物をするという、買い物レクリエーションを実施しました。その際に施設内でみられた帰宅願望が減少したり、他者と積極的に関わろうとする面がみられ、今年度より生活リハビリテーションとして範囲を広げ実施する事になりました。お花見や動物園への外出、回転寿司での外食、施設内においてはおやつ作りやアニメ



普段はなかなか見ることのできない世界の珍しい花や木々を見て、楽しみました。『蓮池』の前にて。



初めは恐々と動物と接していた利用者様も、次第に笑顔でふれあっておられました。仲良くなった動物達と。

ルセラピーを実施し、社会性維持、積極性・活動性の向上、精神的安定を図っています。アニメルセラピーにおいては、動物病院の先生を中心としたボランティアの方がセラピー犬を連れて来て下さり、ご利用者様も大変喜ばれ楽しい雰囲気の中で実施する事ができました。この様な取り組みを通し、今後より一層ご利用者様の力や励みになれる様、スタッフ一同努めていきたいと思っています。



醍醐の里 職場内研修に思う

京都市洛西ふれあいの里

保養研修センター

管理事業部長

柏原 常宏 様

福祉職員の研修には、職種固有の研修と福祉職員としての共通の研修、そして組織人としての基本的な研修の3つに分類されます。

醍醐の里では、利用者への福祉サービスの充実を願い、施設の円滑な運営の為の研修として、受講機会の少ない「組織人としての研修」を年間計画の中に位置づけたいと、私ども洛西ふれあいの里保養研修センターに昨年度相談に來られた。

今日、施設と研修センターが、共同で職場内研修プログラムを検討し、月一回の「組織人としての研修」を開催し、研修センターとして微力ながらも講師を務めさせて頂いています。

職員の方々は、業務終了後、自分の時間をさかれ受講

され、組織人としての自らの役割等を再確認され日常業務に反映されている事に毎回頭の下がる思いです。

洛西ふれあいの里保養研修センターでは、年間を通して各種の研修を実施し、多くの福祉施設職員の方々が受講されているが、醍醐の里で実施されている職場内研修のように職場単位で計画的に研修が実施されることも福祉人材育成に欠かせないものであり、多くの施設が職場内研修を計画的に実施される事を願っております。

写真は、平成十六年十一月職場内研修の写真です。



介護教室だより

4階看護主任

佐々木 紀代子

平成十六年六月二十六日の午後、当施設において介護教室を開催致しました。二十人余りのご利用者様のご家族様にご参加頂きました。

事務部長による「介護老人保健施設の今後について」、看護部長により「介護保険の概要について」講演の後に、「痴呆とは」とおおよそまかな題材で進めさせて頂きました。

介護教室講演内容

一、介護老人保健施設の今後について

二、介護保険の概要について

三、痴呆とは

痴呆についてアルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆との違い、加齢にともない、どのような身体的変化があり、そんな中での痴呆性老人の問題行動及び、痴呆性老人への接し方など話をさせて頂きました。

短い時間ではありましたが、深い関心を示して頂き熱心な質疑をうけ無事に閉会となりました。今後もご家族の皆様との交流の機会が、数ある事を望みます。

写真は、今年六月に開催されました、介護教室の写真です。



栄養科だより

管理栄養士

島田 芙美

『駅弁食べて日本一周!』

今回は醍醐の里で好評の“駅弁”についてご紹介します。“駅弁”といっても近所の駅から買ってきたものではなく、醍醐の里の厨房で一つ一つおかずを詰めて作った、手作りの特製駅弁です。駅弁といえば日本全国津々浦々、その土地の特色を生かした美味しい食べ物が一つの箱に詰め込んである楽しいお弁当です。最近では駅弁めぐりのツアーまであるくらい、全国の駅にはいろんな駅弁があり、人気を呼んでいます。

現在醍醐の里では、この全国各地の駅弁をモデルにした手作りの駅弁を毎月一回、ご利用者様の皆様に召し上がって頂き、日本各地の味を手軽に味わって頂いています。利用者様の中には、以前その駅の近くに住んでいた、

毎日その駅に通っていたことがあるなど、昔を思い出されて色々なお話を聞かせて頂きます。

先月は九州福岡かと思えば、今月は飛騨高山へと、日本各地を飛びながら、これからも駅弁食べて日本一周を目標に元気に過ごして頂ければと思います。

写真は今月9月の駅弁で、福岡県JR鹿児島本線の小倉駅で販売している、浪漫あふれる海峽の街“門司港”からの『レトロ浪漫弁当』です。明治時代に外国との貿易が盛んであった街だけに、駅弁にもモダンな雰囲気が出ていませんか？



接遇委員会より

接遇委員

上野 直子

接遇・研修委員会では、ご利用者様やご家族様により良質のサービスを提供できる様、年間を通し様々な取り組みを行っています。

知識・技術向上を目指し、施設内外での研修活動を始め、全職員に対して定期的に自己評価のチェックを実施し、自らの職員態度を振り返る機会を設けています。又、毎年3月にはご家族様へのアンケート調査を実施しています。そうして頂いた貴重なご意見・ご要望を基に、各フロアが毎月行う会議で一つ一つ話し合い、目標を設定しながら、改善に向けて日々取り組んでいます。

接遇・研修委員会では、「ご利用者様の人権尊重」

という施設理念を柱とし、これまで活動してきました。私達が考える一番の人権尊重とは、より多くの声を現場の介護に活かすことです。

これからもご利用者様やご家族様との日々のコミュニケーションを積み重ね、ご利用者様やご家族様の「心の支え」となるような介護を目指し活動していきたいと考えています。

写真は、施設内研修の写真です。



『第4回醍醐の里クリスマス会』のお知らせ



日時：12月25日（土） 午後1時30分～午後3時
場所：醍醐の里（1階）



本年度クリスマス会を上記の日程にて開催致します。
各階利用者様の催し物等がございますので、
ご家族の皆様もぜひ御覧になって頂ける様、
お待ちしております。



『第4回醍醐の里夏祭り及び敬老会』のご報告

本年度 醍醐の里夏祭りに多数のご参加を頂きありがとうございました。
皆様のおかげをもちまして、無事故にて大成功に終える事ができました。心より
お礼申し上げます。又、9月には敬老会を開催させて頂き、ボランティアの方の
催し物などご利用様に楽しんで頂きました。今後もスタッフ一同力を合わせ皆
様に喜んで頂ける様、頑張ってお参りますので、ご支援の程宜しくお願い致します。



『夏祭り』
模擬店の風景。



『敬老会』
表彰式の風景。

目次

表紙（『醍醐寺金堂』写真） 『あいさつ』 理事長 高松 俊英	1 ページ	『生活リハビリテーション』 3階療養棟／4階療養棟	5 ページ
『あいさつ』 事務部長／看護部長	2 ページ	施設内研修／介護教室だより	6 ページ
『あいさつ』 介護支援専門員／支援相談員	3 ページ	栄養科だより／接遇委員会より	7 ページ
『生活リハビリテーション』 通所リハビリテーション／2階療養棟	4 ページ	お知らせ／ご報告／編集後記	8 ページ

肌寒い季節がやってまいりました。利用者様・家族様は風邪を引かれてませんか？
この度、『さらっと醍醐』第二号の編集に携わらせて頂き、各階のレクリエーションや、施設内で力を入れている事を、広報誌よりご家族様に伝えられ嬉しく思っております。今後とも利用者様の立場に立った介護を心掛けていきたいと思っております。少し早いですがお知らせ、良いお年をお迎え下さい。

広報委員 庄司 直緒美

創刊号に続き、第二号を無事発刊できた事を嬉しく思います。これも皆様のご協力のおかげ。編集者全員感謝の気持ちでやみません。
第二号は、創刊号に比べると、紙のグレードはやや落ちましたが、広報誌として、少しでも醍醐の里の取り組み、活動を皆様に理解して頂きたいという気持ちは、前号と少しも変わりません。まだまだ発展途上な広報誌ですが、今後も『さらっと醍醐』を宜しくお願ひします。

広報委員 古海 顕信

編集後記